

トップツアー旅木連総会特集

三者の協力で 共に飛躍を

特別対談

トップツアー協定旅館ホテル連盟(野田謙二会長、1511会員)は19日、東京都渋谷区のセルリアンタワー東急ホテルで本部総会を開催する。「三者共同事業」をスタートさせるなど、新たな協力関係に発展した旅木連と会社の連携のあり方について、野田会長と石川邦大社長に語り合ってもらった。コーディネーターは編集長、内井高弘(トップツアー本社役員応接室にて)。



トップツアー代表取締役 石川 邦大氏



トップツアー協定旅館ホテル連盟会長 野田 謙二氏

域内キャンペーンを重視し共同展開図る

野田 旅館は、地元のさまざまな観光素材を生産者や開発者、観光客の要素を加え、付加価値のある商品として販売する。お客さまから見て、旅行内容が面白く、その旅行会社でしか造れないというツアーができた、旅行会社真利に尽きる。

石川 取扱高は約1億7000万円、前年比で10.6%、営業収益が150億1300万円、対前年比10.5%、営業利益が10億7200万円という状況、黒字は11期連続だ。

野田 国内については、宿泊交通機関などの素材型商品を中心に、ネット販売にシフトしている。サプライヤーから、素材をお預かりして販売するという役割はネットの普及に伴い、直販やネット系の旅行会社に移行してきた。お客さまに移動と、どこで買っても同じ素材であれば、少しでも安く便利に買いたいのが当たり前。

「専門性の高い営業」推進し「安心感」醸成



対談の様子

野田 国内については、宿泊交通機関などの素材型商品を中心に、ネット販売にシフトしている。サプライヤーから、素材をお預かりして販売するという役割はネットの普及に伴い、直販やネット系の旅行会社に移行してきた。お客さまに移動と、どこで買っても同じ素材であれば、少しでも安く便利に買いたいのが当たり前。